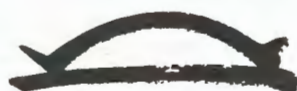


TECHNORIDGE



WINTEC



211
1995

平成7年度事業計画	2
平成7年度の抱負	4
職員の所属及び専門分野	7
新人紹介、人事異動	8

和歌山県工業技術センター

工技センターの基本理念

“技術先導・成果提案をモットーに”

地域に密着した研究開発及び先端技術への対応

☆新規事業（予定）

1 プロジェクト研究（補助事業）

1) 新地域技術おこし事業（平成5年度～平成7年度）

CG技術を用いて、質感を設計することにより試作の繰り返しでは生まれない新しい質感を創造、新商品開発に寄与する開発を行う。

2) 特殊織物集積活性化事業（平成5年度～平成7年度）

特殊織物業界の省力化装置の研究及び新分野開拓の研究を行い地域の活性化を目的とする。

☆3) ニット集積活性化支援事業

ニット業界の新分野進出を支援するため研究開発を実施する。

☆4) 高付加価値化支援事業（日自振）

先端機器を導入し、幅広い技術の蓄積と先端技術の普及を推進する。

5) 広域共同研究事業（平成6年度～平成8年度）

熱硬化性樹脂系産業廃棄物の高度利用技術の開発を行う。

☆6) 広域技術情報ネットワーク推進事業

ネットで公開するためのソフト開発

☆7) 地域産業製品高度化事業

地場産業製品の高度化を目的に地域産業素材の高度化、ビジュアルプレゼンテーションシステムによる高付加価値化、高品質・高機能製品の開発評価を行う。

8) 皮革製造工程合理化研究事業（平成6年度～平成7年度）

皮革製造工程の自動化・省力化を目的にシステムの開発を行う。

2 産官共同研究 8テーマ（継続、新規を含む）

実用化が高く望まれる技術開発項目を企業から募集し、和歌山県工業技術開発会議の承認を得て、産官学の共同研究により企業化開発を行う。

3 研究テーマ創製事業 10テーマ予定

将来の実用化に向けてシーズ探索、試作、特許等の実用化、地域技術シーズ調査等の研究を行う。（センター職員からの応募により選定）

4 排水処理対策事業（平成3年度～平成7年度）

工場排水の難分解物質の除去技術に関する研究

5 経常研究

県下の産業への貢献

a 知識集約型・高付加価値型

b 高度化・ソフト化・メカトロ化・デザイン向上による競争力の強化

c 新製品、新製品の開拓

“W I N T E C” 平成7年度事業計画

- a 企業に十分利用される開放型センター
- b 産学官や企業間の連携を進めていく工業技術センター
- c 技術の進展に対応しうる研究開発型センター

技術指導・相談、試験分析・評価、企画調整・情報機能の充実及び財団との連携

1 再編整備（実証棟建設、周辺整備）

2 技術の架け橋事業

- 1) 工業技術開発会議（学識経験者等による研究等の提言）
- 2) 一日工業技術センターの開催
- 3) 成果発表会の開催
- 4) 技術図書館機能の整備・充実

支 援

（財）和歌山テクノ振興財団
ハイテクインターフェイス
（他府県頭脳の誘導拠点）

3 技術指導事業

- 1) 技術普及講習会
- 2) 技術アドバイザー事業
技術専門家及び工業技術センター職員による技術指導
- 3) 零細皮革産業指導事業
- 4) 皮革産業研修事業

4 研究能力開発事業

5 研究開発成果普及事業

研究報告発行1回／年、技術情報誌発行6回／年
インターネットによる情報提供

6 機器使用ライセンス事業

7 中小企業技術者育成・研究生受け入れ

8 依頼試験・分析・評価

9 技術指導・相談

10 広報活動（プレス発表・センターPR）

1 人材育成事業

テクノ大学、シンポジウム
ハイテクセミナー、科学ア
カデミー、技術研究会

2 情報提供事業

技術情報サービス
情報誌発行

3 交流支援事業

和歌山技術交流推進
協議会 テクノサロン
異業種交流支援
県内外視察
新商品開発販売塾
技術フォーラム

4 起業化支援事業

インキュベータ事業
起業化支援

5 共同研究促進事業

産業振興支援
外部ブレーンの活用

財団職員体制

専任 7名、賛助会員 167社
技術振興基金 8億9300万円

〈平成7年度の抱負〉

再編整備の仕上げる時期にあたって

所長 本田 皓一



工業技術センターは、平成元年に工業試験場が改組されて発足以来、進展する技術革新に対応した研究開発型機関として地域産業に積極的に貢献することを目指して、再編整備を進めてまいりました。今年度及び創立80周年となる来年度は再編整備の仕上げる時期にあたり、ハード的には実証棟の建設を、ソフト的には制度面の基盤整備を行う予定です。その一つは組織及び業務の改革・再編であり、工業技術センターのビジョンを策定し、研究開発、技術指導、試験分析、支援部門等の業務を見直し、研究開発機能と試験分析機能が効率的に両立する組織の構築を目指します。もう一つは、人頭経費としての経常研究費の制度化で、依頼試験収入やプロジェクト予算に依存せず、研究機関には必須の日常業務である目的基礎研究を行うための恒常的予算の実現を目指します。

また、再編整備により充実強化された工業技術センターをより多くの地域企業に活用して頂くために、従来の技術情報誌や研究報告のみならず、利用の手引きや図書・設備一覧等の配布、インターネットによる情報提供、新聞・テレビ等のマスメディアによる成果紹介等を積極的に推進していく所存です。

新世紀に輝くWINTEC

事務次長 小谷 正



ここ10年、和歌山県を取り巻く環境が大きく変貌いたしてまいりました。

近畿自動車道と和歌山線の国土幹線軸への直結、関西国際空港の開港、21世紀の海上リゾート都市マリーナシティの着手、美術館・博物館・図書館の三館構想の実現、県立医科大学の移転整備の着手、県立看護短期大学の建設、近畿大学生物理工学部・和歌山大学システム工学部の開設、海南インテリジェントパークとリサーチラボの建設・近畿大学研究所の進出決定、大規模ドーム型多目的ホールの着手、紀伊半島一周高規格道路の国土計画での決定と南部までの事業化、県内各市町村を二時間で結ぶ道路計画『3・5軸構想』の整備途中での和歌山・新宮間三時間の実現、紀淡海峡大橋の実現化等々、社会と経済を支える基盤が確実に姿を現してまいっております。

ここ県工業技術センターにおいても再編整備計画が進められ、交流棟・本館が既に完成し、本年着手する実証棟の建設を残すのみとなりました。

研究設備の整備も着実に進んでまいっております。

今後更に、新世紀に輝くWINTECとして、名実ともに県内産業のお役に立てるよう取り組んでまいりたいと存じますので、関係者のご指導ご鞭撻をお願い申し上げますとともに各企業の皆様のお気軽なご利用を願いたします。

備えあれば愁い無し

技術次長 藪内 武



平成の時代になってから私達センターの研究設備、環境は急速に改善されてきました。特に研究環境の更新は現在も進行中であと2年以内に完了します。

しかし、あと一つの「人」はこの変革に追従出来ているだろうか日々反省しているところです。一方、各企業においては昨今の急激な円高等により極めて厳しい状況のもと、血の滲むような努力をされていることと思います。そこで我々も、今一度視点を変え企業の視点から、望まれる成果・情報か？、望まれるタイミングに提示できるか？等、試験・研究・指導のあり方を見直さなければならないと思います。

特に私が重視したいのはタイミングです。いかにすばらしい研究成果も、時期を逸すれば全く役に立たなくなる場合があります。つまり、タイミングよく成果を提示するためには、いかに多くの高品質な成果、技術を蓄積しておくかにかかっています。つまり「備えあれば愁い無し」です。そのためには、日頃の自己研鑽は当然ではありますが、いかに研鑽の場、時間を提供できるようにするかが、これからの私の使命として努力したいと思っています。

センターに着任して

総務課長 西 奥 重 光



4月1日商工企画課よりセンター総務課に着任いたしました。本年2月に竣工した総ガラス張の本館、6階建ての交流棟を見たときにあらためて県の工業技術センターへの力の入れ方に身の引き締まる思いがいたしております。

着任して約一ヶ月になりますが、研究設備の充実、事業の多彩さにいささか戸惑っております。

例えば、高価な分析機器、配備されているコンピューターの多さ、所内に張り巡らされているランシステム、世界とつながるインターネット、また、庁舎警備システム等であります。私には目新しい世界がここにあり、一日も早くこれらの機器、システムと仲良くなるよう努力を行いたいと考えております。

当センターの目的は、本県産業界への技術指導、情報提供等を行うと共に、企業・大学等との共同研究開発により、県内産業の振興を技術面でバックアップすることにあります。このため、企業の方の利用しやすいセンターをめざして、センター研究者のサポート役として、お役に立てればと思っておりますので、何卒よろしくお願い致します。

自己革新に

企画調整部長 南 広 己



4月1日付で企画調整部長に転任を拝命いたしました。

当センターも、平成4年の秋の研究交流棟に続き今年2月に新本館が完成し、さらに7年度は実証棟建設および周辺整備に取り組みます。

これらハードの充実と共にこれからはソフト面の強化とその成果が問われることとなります。

企画調整部の主な業務は、主要研究課題の企画立案、調整、予算（国補事業）、研究成果の管理（特許、工業所有権）、研究成果の普及、広報（技術情報誌、研究報告の作成）、共同研究や研修事業に関する技術分野の事務手続き等、多様ですが、企画はそれを実行する人（研究員）が心から納得して挑戦できるものでありたいと思います。

私も35年余りの長期間、専門分野（醸造技術、発酵食品）にのみたずさわってきたので今、研究室を離れる淋しさは一人ですが現場に対するこだわりを捨て自己革新に挑戦する決意です。

一步進んだセンターを目指して

指導評価部長 神 前 寿



繊維関係の業務を主として担当してきた私が、繊維染色、化学、食品、生物工学、機械金属、さらに今年度機械金属担当に発展的に統合したニューセラミックス関係の業務の運営を担当して二ケ年が過ぎました。その間にセンターはハード面での整備が着々と進み、平成7年1月には新本館が完成し、本年度は最後まで残っていた実証棟の工事まもなく始まる事になりました。

又ソフト面では時代のニーズを先取りした研究開発型へと大きく転換を図り、積極的に関係業界との技術交流を行うなど着々と開放型センターに向けて進めています。

これからは二年間の経験をふまえて業界とセンターが一体となって今後のあり方を考えながら業務を遂行していきたいと考えています。

前にも述べたとおり建て屋の更新、組織の改革等で業界の方々に一時的ご不便をおかけすることがあろうかと思いますがご容赦を頂きたいと思っております。

「一步進んだセンター」を目指して微力ながら努力いたしますのでより一層のご支援をお願いします。

本年度の当部業務について

造形技術部長 田村 禎男



本年度から、当部の構成は、木材担当、デザイン担当が合併されて木材・デザイン担当となり、従って、部の構成担当は従来のプラスチック担当と併せて2担当よりなること、つまり、1担当2名といった小単位構成より、御依頼の方々に対し、よりフレキシブルな対応を可能とする、2担当8名体制となりました。

この体制のもとに、プラスチック製品の原材料関係の化学合成研究、生成廃棄物の活用再利用化、成形加工技術に関すること、および、関連新技術の紹介。また、木製品、木材加工および複合材の高度化技術の紹介、廃材、小径木の有効利用の為に木材炭化、圧縮、液化・プラスチック化技術等の研究。さらに、上記研究に関連した分析技術による試験分析、技術相談などの業務を行っています。デザインについては、その性格の位置づけが全国的な問題となっていますが、我々は、依頼された個々の意匠の作成といった形ではなく、工業的な技術に関するものに取り組もうとしています。

抱負については、前年記載いただきましたので、これに代えて、「学術においても実際には人は何も知ることは出来ない。常に実践が必要である。」（ゲーテ）

雑 感

研究開発部長 内田 昌宏



今年も又春がきて新緑が映える季節となった。毎年この頃になるとこの自然の営みやしくみに驚嘆し、生きていることの喜びを実感できることは素晴らしいことである。しかし、近年の渇水や世界の異常気象の様な状態を見聞きすると、人間の力などは微々たるものだと思ひ知らされると同時に、今までの人間の行い自体が妥当なものであったのかどうかと言う反省の念にとらわれる。けれども、現在、人間と地球との調和のある共生が強く求められているために、我々は技術課題の抽出においても慎重に対応することが求められている。我々の最重要テーマは（1）環境保全（排水処理、副廃棄物の有効利用）（2）有機合成（精密有機合成、生分解性高分子合成）（3）電子・情報（インターネット利用、CG応用）等々である。これらの研究は従来通りに遂行する事は勿論のこと、今後の研究領域は（1）コンピュータ処理技術、エネルギー、医療福祉、（2）天然物化学、高分子制御合成、微生物による環境浄化等の研究も広い視野でかつ融合的に対処し、地域産業との緊密な連携のもとに進めて参りたい。そして、常に、自然に学び、簡単に素朴な「Why」なる旺盛な好奇心を持って事に当たろうと思っている。

課題解決に向けての取り組み

皮革分場長 石原 矩武



皮革産業界は、国内景気が芳しくないところに加えて、神戸市長田区のケミカルシューズ団地が阪神大震災で壊滅的な被害を受けたこと、急激な円高による皮革及び皮革製品の輸入の急増が予測されること等が重なって、受注が低迷しています。新製品開発の努力により打開しようとしても難しい状況です。さらには、従業員の高年齢化、シェービング屑や縁裁ち屑の処理の問題、等々頭の痛いことが山積みされていて身動きがとれない状況にあります。

このような時こそ、景気が戻って来たときのために実力を蓄える好機と、前向きに仕事に取り組むたいと皮革分場では考えています。

皮革分場では、平成4年度から取り組んでいる副廃棄物の高度利用としてのゼラチンを原料とした生分解性プラスチックの開発、そして従業員の高年齢化に対応するための仕上げ塗装機への革の挿入ロボットの開発の大きな2テーマの完成を目指しています。これらの他に、省クロム鞣技術、ウェットホワイトや染色技術等の試験についても、業界の皆様をはじめ薬品メーカー等の協力を得て実施していきたいと計画しています。

職員の所属及び専門分野

平成7年4月5日

所 属	担 当 名	職 名	氏 名	専 門 分 野
		所長	田 皓 一 1)	タンパク質工学
		次長	本 小 谷 内 正 武	繊維機械
		技師	坂 崎 實	繊維物性
総 務 課		課主	長 西 奥 重 光 子	
		主事	宮 平 公 英 造	
		主用	事 堀 加 奈 子	
		務員	片 山 貴 浩	
		務員	中 村 浩 規	
		部 長	南 広 己	醸造技術・発酵食品
企画調整部		主任研究員	上 川 三 雄	繊維材料・繊維物性
		主査研究員	小 畑 俊 嗣	セラミックス
		研究員	下 林 則 夫 3)	有機合成・文献図書
		研究員	石 野 久 美 子 5)	人工知能・教育工学
		主任研究員	林 健 太郎	＝ テクノ振興財団出向
		主査	山 中 健 次	＝ テクノ振興財団出向
		主査	中 林 憲 一	＝ テクノ振興財団出向
		部 長	神 前 寿	繊維機械・製繊維技術
	繊維・染色	主任研究員	谷 正 博	染色加工・繊維製品評価
		主査研究員	角 谷 秀 昭	織物技術・繊維評価
		主査研究員	大 萩 成 男 3)	色彩応用技術
		研究員	山 本 芳 也	編成技術・繊維評価
		研究員	高 垣 昌 史	応用化学・合成繊維製造技術
	化 学	主任研究員	中 岡 忠 治	分析化学・機器分析
		主査研究員	由 良 好 史	分析化学・機器分析
		研究員	松 本 明 弘	応用化学
指導評価部	食品・生物工学	主任研究員	中 内 道 世	食品分析・食品加工
		主査研究員	池 本 重 明 4)	応用微生物・生物工学
		研究員	高 辻 涉	生物化学工学
		研究員	山 西 紀 早 子	食品分析・栄養学
	機 械 金 属	主任研究員	中 村 嵩 文	金属材料・機械電気
		主査研究員	永 坂 博 利	金属材料・金属分析
		主査研究員	新 山 茂 利	ソフトウェア開発・電子技術
		主査研究員	田 口 義 章	セラミックス・金属材料
		研究員	中 本 知 伸 3)	精密測定・金属材料
		研究補助業務員	花 坂 寿 章	機械技術・金属加工
		部 長	田 村 禎 男	染色加工・コンピュータグラフィックス
造形技術部	木材・デザイン	主査研究員	北 口 功 俊	デザイン・コンピュータグラフィックス
		主査研究員	播 摩 重 徹	木材加工・計測技術
		研究員	梶 井 本 武	工業デザイン・グラフィックスデザイン
		研究員	梶 井 本 武	木材工学・木質環境技術
	プ ラ ス チ ッ ク	主任研究員	久保田 静 男 2)	機能材料・繊維高分子材料
		主査研究員	山 口 和 三 3)	高分子物性・高分子加工技術
		研究員	伊 藤 修 3)	高分子合成化学・複合材料
		研究員	今 西 敏 人	セラミックス・無機化学
		部 長	内 田 昌 宏	高分子材料・高分子系複合材料
研究開発部	環 境 技 術	主任研究員	谷 口 久 次 2)	有機合成・有機化学
		主査研究員	中 岡 元 信 3)	排水処理・分析化学
		主査研究員	前 田 育 英 2)	高分子化学・高分子材料
		研究員	野 村 英 作 2)	有機合成・有機化学
	電 子 ・ 情 報	主任研究員	岡 本 良 作 3)	電子機器・自動化システム
		主任研究員	前 田 裕 司 2)	電子工学・数理工学
		研究員	坂 下 勝 則	生産機械・自動化システム
		研究員	上 野 吉 史	電子工学・EMC
		研究員	井 口 信 和 4)	コンピュータサイエンス
		(兼務 企画調整部)		
皮革分場		分 場 長	石 原 矩 武 雄 4)	皮革化学
		副 分 場 長	元 吉 治 茂	皮革化学・タンパク質化学
		研 究 員	古 田 拓 也	メカトロニクス
		研 究 員	前 田 拓 也	セラミックス・無機材料

1) 理学博士 2) 工学博士 3) 工学修士 4) 農学修士 5) 教育学修士

私の経歴と抱負

指導評価部 高垣 昌史



本年4月1日付で、工業技術センター指導評価部 繊維・染色担当に配属されました。

大学では、有機合成分野の「ビオロゲンの合成とフォトクロニズム」というテーマで卒業研究をしました。

卒業後は、繊維メーカーの合成繊維部門で溶融紡糸による新規合成繊維の開発や不織布（主にスパンレース）の開発に携わってきました。

今は、工業技術センター内の各部署で業務や設備の説明を受けています。この研修から学んだ知識・技術を、繊維・染色にも幅広く応用できるように習得したいと思っています。

近年の科学技術の発達には目を見張るものがたくさんあります。現在、日本は国際競争に勝つため「技術立国」をめざしています。この競争に勝っていくために、私も和歌山県の産業発展に少しでも役に立つように努力していきたいと思います。

私の主な仕事である依頼試験や技術指導等の業務は、スピーディに的確に解決できるよう力を尽くしたいと考えています。私には、まだ和歌山県内の産業でどのような問題点があるのか、また繊維・染色についてもわからないことがたくさんありますが、皆様の役に立つように頑張っていきたいと思いますので御指導の程宜しくお願いします。

プロフィール

昭和62年3月 山梨大学工学部応用化学科卒業

平成7年4月 和歌山県工業技術センターに入所

趣味 スキー、ドライブ

技術相談を下記方法で受け付けております。ご利用ください。

専用FAX：0734-77-3882

電子メール：consultation@wakayama-kg.go.

編集後記

平成7年度の「和歌山県工業技術センター編集委員会」の委員長及び委員は下記のとおり決まりました。

県内企業が求める新しい技術を提供できる「テクノリッジ」となるよう頑張っていきたいと思います。

委員長 南 広己

委員 下林則夫、石野久美子、由良好史、山口和三、谷口久次、元吉治雄

平成7年4月1日付人事異動

転入

氏名	新	旧
小谷 正	事務次長	総務学事課副課長
西奥 重光	課長	商工企画課主任

転出

氏名	新	旧
秋月 成夫	産地振興課長	事務次長
藤原 茂	企業立地課調整班長	課長

課長級以上及び昇格者

氏名	新	旧
藪内 武	技術次長	企画調整部長
南 広己	企画調整部長	研究開発部長
内田 昌宏	研究開発部長	造形技術部
中内 道世	主任研究員	主査研究員
前田 裕司	主任研究員	主査研究員
前田 育克	主査研究員	研究員
小畑 俊嗣	主査研究員	研究員

所内人事異動

氏名	新	旧
久保田静男	造形技術部	研究開発部
大萩 成男	指導評価部	造形技術部
田口 義章	指導評価部(キカイ)	指導評価部(ニューセラ)
今西 敏人	造形技術部	指導評価部
井口 信和	研究開発部	企画調整部
石野久美子	企画調整部	研究開発部

新規採用

高垣 昌史 指導評価部研究員（繊維・染色担当）

平成7年3月31日付退職者

氏名	退職者
岩鶴 昭	技術次長
瀬口 貴代	研究補助業務員